

○中島修、曾根美好（国立熱海病院）
袁世華（長春中医学院）
池川哲郎（金沢大学・生命科学）

【目的】膠原病、リウマチの病因の解明は、未だ十分ではなく、従って、治療法も確立されているとはいえない。そこで、中国長春中医学院との協同研究で開発した漢方薬（NM-21）を用いて全身性ループスエリテマトーデス（SLE）と慢性多発性関節リウマチ（RA）の患者を治療したので報告する。

【方法】RAの診断は米国リウマチ協会、SLEの診断は厚生省の診断基準によった。対象となった症例は、SLE 5例、RA 20例、合計25例であった。血清中 β エンドルフィン濃度は、酵素抗体法で測定した。また、その他の免疫学的パラメーターは国立熱海病院臨床検査室で1ヶ月に1回測定した。

【成績】

1. NM-21による β エンドルフィンの誘導効果

健康成人男子5名についてNM-21、6錠を一括して内服後、経時的に血清中の β エンドルフィン濃度を測定した。その結果、内服2時間後に最高濃度に到達し、投与前値の約2.8倍にまで上昇した。

2. 関節痛、筋肉痛などの疼痛に対する効果

疼痛に対する効果は、Lansburyの方法で点数化して評価した。その改善度を調べた結果、1例が増悪、1例で不変、他の23例では改善した。改善度は92%であった。長春中医学院で実施した各種の関節痛を有する疾患に対する疼痛改善率もほぼ同様の成績であった。

3. 臨床パラメーターへの効果

リウマチ因子（RF）、抗核抗体（ANA）および炎症性蛋白（CRP）は、NM-21服用後より漸次低下し、内服後6ヶ月後には全例において正常範囲内にまで低下した。

【結論】NM-21は血清中 β エンドルフィン濃度を上昇させ、直接的にRA、SLE患者の関節痛等の疼痛を改善せしめた。さらに、免疫系にも作用し、自己抗体の低下とそれに伴って炎症性蛋白の減少をもたらし、SLE、RAの治療に有用と考えられた。この作用機序については引き続き検討中である。